

## 平成20年度病虫害発生予報第1号の発表について

向こう1か月の主要な病虫害の発生動向についての予察情報及び病虫害防除に関する栽培管理について解説します。

### 病虫害防除の主な留意点

- ・ 向こう1ヶ月の主要な病虫害の発生動向として、果樹ではかんきつのかいよう病、茶のカンザワハダニ等の害虫、野菜類ではトマト等果菜類の灰色かび病及びタバココナジラミ、いちごのアブラムシ類及びハダニ類の発生が多いと予想され、これらの病虫害について注意が必要です。これらの害虫の中には、ウイルス病の病原ウイルスを媒介するものもあるので、適切に防除を実施してください。
- ・ 春先の病虫害の発生を抑制することは、今後の病虫害防除を効率的かつ効果的に行うためにも重要なので、各作物ごとの基本防除を実施してください。
- ・ また、薬剤散布を実施する場合には、病虫害が薬剤への抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
- ・ なお、天候の1ヶ月予報では、平均気温は、北日本、東日本では高いと予想されています。降水量及び日照時間は全国的に平年並と予想されています。
- ・ 天候の状況に注意しつつ、都道府県の発生予察情報に留意し、地域ごとの防除要否を見極めて、適切な病虫害防除を行ってください。

### 用語の解説

#### 1. 【発生量（程度）】

- ・ 多い(高い)：やや多いの外側10%の度数の入る幅
- ・ やや多い(やや高い)：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない(やや低い)：平年並の外側20%の度数の入る幅
- ・ 少ない(低い)：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

#### 2. 【地域】

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
  - 北東北：青森県、岩手県、秋田県
  - 南東北：宮城県、山形県、福島県

- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県  
     北関東：茨城県、栃木県、群馬県  
     南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県  
     北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県  
     南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖 縄：沖縄県

## 稲

- ・ 苗いもちの発生は南関東の一部で「多い」と予想されるほかは、平年並以下と予想されます。本田に放置したままの補植用取置き苗は、いもち病の伝染源となるので、早期除去を徹底してください。罹（り）病苗が見られた場合には早期に処分し、健全苗の確保に心掛けてください。
- ・ 播種・育苗作業にあたる地域では、健全種子の使用と、種子消毒を徹底してください。また、育苗箱施用薬剤を使用する場合は、いもち病で一部の薬剤に対する耐性菌が認められているので、都道府県から発表されている耐性菌の分布情報を参考にして、薬剤を選定してください。
- ・ なお、本田において除草剤を使用する際は、単一の剤を連続使用せず地域ごとに実態に合わせた薬剤を組合せ、使用に当たっては、止水期間を1週間程度とる、止水中の薬剤の流出を防止するなどの措置を講じてください。

## 麦類

- ・ 赤かび病の発生は四国の一部で「多い」、北海道、北関東、中国及び北九州の一部で「やや多い」と予想されます。本病菌は開花期の穂に感染しやすく、この時期に降雨が続き気温が高い（20～27℃）と多発します。開花最盛期（出穂の概ね7日後）に1回目の薬剤散布を行い、1回目の防除から7～10日後に2回目の薬剤散布を行ってください。ほ場観察を十分に行い、生育状況を正確に把握して適期防除に努めてください。

## 果樹

### （果樹共通）

- ・ 果樹カメムシ類の越冬量は全国的に少く、発生量も近畿の一部で「多い」と予想されるほかは、全国的に平年並以下と予想されます。今後、気温が高温で推移する場合には、果樹園への飛来時期が早まる可能性があるため、果樹園の観察をきめ細かく行い、飛来初期からの防除を心掛けてください。
- ・ クワゴマダラヒトリの発生は四国の一部で「やや多い」と予想されます。

### (かんきつ)

- ・ かいよう病の発生は中国、四国の一部で「やや多い」、九州の広い地域で「多い」ないし「やや多い」と予想されます。伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、薬剤散布を実施してください。特に、本病は降雨や強風により発生が助長されるので、強風雨が予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。
- ・ そうか病の発生は中国の一部で「やや多い」と予想されるほかは、平年並以下と予想されます。既に発生が見られる園地では、伝染防止のため、発病葉及び発病枝は除去して、確実に園外で処分し、薬剤散布を実施してください。
- ・ ミカンハダニの発生は南関東の一部で「やや多い」と予想されるほかは、平年以下の発生と予想されます。なお、今後、降雨が少なく、高温条件となった場合には、多発することが懸念されるため、発生初期での防除を実施してください。

### (りんご)

- ・ 腐らん病の発生は北東北及び甲信の一部で「やや多い」と予想されます。病斑の削り取り及び罹病枝の剪定を行い、措置部には薬剤を塗布してください。削りカスや剪除した枝は、土中に埋めるなど適切に処分してください。また、雪害による損傷部、剪定痕等にも薬剤を塗布してください。
- ・ リンゴハダニの発生は北東北の一部で「多い」、北海道及び北陸の一部で「やや多い」と予想されます。発生量に応じて薬剤散布を実施してください。

### (なし)

- ・ 黒星病の発生は南関東の一部で「多い」、南東北及び北関東の一部で「やや多い」と予想されます。昨年、多発した地域では、伝染源となる園内の落葉を早期に除去するとともに、感染初期の開花前及び落花期における薬剤散布を実施してください。また、降雨が続くと感染が拡大するので、散布間隔が開き過ぎないように降雨の合間に薬剤を散布してください。
- ・ ハダニ類の発生は北東北の一部で「やや多い」と予想されるほかは、平年並み以下と予想されます。発生量に応じて薬剤散布を実施してください。

### (もも)

- ・ せん孔細菌病の発生は甲信及び北陸の一部で「やや多い」と予想されます。本病は、降雨や強風により発生が助長されるので、降雨の合間を見て薬剤を散布してください。また、罹病枝の除去を行ってください。
- ・ モモハモグリガの発生は東海の一部で「やや多い」と予想されるほかは、平年並以下と予想されます。産卵後から若齢幼虫期をとらえた薬剤散布を実施してください。

### (かき)

- ・ 炭そ病の発生は北陸の一部で「やや多い」と予想されるほかは、平年並以下と予想されます。園内観察をきめ細かく行い、発病枝の除去を行ってください。幼果及び新梢での発生を抑えるため、適期防除を実施してください。

## 茶

- ・カンザワハダニの発生は南関東の一部で「多い」ないし「やや多い」、近畿及び南九州の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・クワシロカイガラムシの発生は南九州の一部で「多い」と予想されます。継続して発生が見られる場合は、ふ化した幼虫の発生状況を観察し、最も防除効果の高いふ化最盛期に薬剤散布を実施してください。
- ・チャノホソガの発生は近畿の一部で「多い」、南関東の一部で「やや多い」、チャノキイロアザミウマの発生は北九州の一部で「やや多い」と予想されます。
- ・新芽の展開時期から摘採期となるので、薬剤散布を実施する場合には、農薬使用基準に十分注意してください。

## 野菜及び花き類

### (施設栽培)

- ・4月下旬となり、気温の上昇とともに、野外でも病害虫の活動が始まっています。冬期間に閉鎖環境であった施設栽培では、今後、栽培管理上施設を開放する機会が増えるため、施設への病害虫の侵入に注意が必要です。防虫ネットの設置等の侵入防止措置を確実に行ってください。侵入経路となりやすい施設開口部付近の畝は注意深く観察し、病害虫の早期発見に努め、病害虫の発生が確認された場合には速やかに防除して下さい。
- ・また、ウイルス病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類及びアザミウマ類等の発生の抑制は、ウイルス病防除対策としても効果的です。これらの害虫の発生源となる施設内及び周辺の雑草を定期的に除草するとともに、ウイルス罹病株の早期抜取りに努めてください。さらに、これらのウイルス媒介虫の野外への飛び出しを防ぐために、施設開口部に防虫ネットを設置し、栽培終了後は施設の蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出してください。

### 今後の発生量が多い・やや多いと予想される病害虫及び対象地域

作物名／病害虫名	発生が多い地域	発生がやや多い地域
トマト／		
黄化葉巻病	—	東海、四国、北九州
灰色かび病	北関東	南関東、北陸、九州
葉かび病	—	北九州
コナジラミ類	南九州	南関東、東海、北九州
きゅうり／		
黄化えそ病	四国	—
褐斑病	—	関東
べと病	—	北関東、四国
灰色かび病	—	北陸、東海
アザミウマ類	—	東海、四国、南九州

アブラムシ類	—	南関東、四国
コナジラミ類	—	四国、南九州
なす／		
すすかび病	—	四国
コナジラミ類	四国、北九州	—
アザミウマ類	四国	—
ピーマン・シシトウ／		
うどんこ病	南九州	北関東
アザミウマ類	—	北関東、南九州
コナジラミ類	四国	—
いちご／		
うどんこ病	南九州	北関東、四国、北九州
灰色かび病	南関東	北関東、東海、四国
アザミウマ類	南九州	南関東、東海
アブラムシ類	九州	東海、四国
ハダニ類	関東、南九州	東海、四国、北九州

(露地栽培)

- ・ 露地栽培においては、気象の影響を受けやすいことから、今後、周期的に変化する天候に注意し、病害虫の早期発見及び早期防除に努めてください。
- ・ また、発病株は、早期に抜き取ってほ場から除去し、病原体の拡散を防止してください。露地栽培における主な病害虫の発生予想は、次表のとおりです。

#### 今後の発生量が多い・やや多いと予想される病害虫及び対象地域

作物名／病害虫名	発生が多い地域	発生がやや多い地域
キャベツ／		
菌核病	近畿	南関東
たまねぎ／		
べと病	—	甲信、中国、四国、北九州
ネギアザミウマ	—	北九州
ねぎ／		
さび病	北九州	北陸
べと病	北九州	—
黒斑病	南関東	—

ネギアザミウマ	—	南関東、北九州
---------	---	---------

## 花き類

- ・ アブラムシ類の発生は北九州の一部で「多い」、ハダニ類の発生は北関東及び南九州の一部で「やや多い」、ハモグリバエ類の発生は南九州の一部で「やや多い」と予想されます。ほ場内でのこれら病害虫の発生状況を観察し、適時適切な防除に努めてください。

## その他

前回（平成 20 年 2 月 28 日）以降、各都道府県が発表している発生予察情報は下記のとおりです。

- ・ 注意報

発表月日	県名	作物名	病害虫名
3 月 1 日	大分	白ねぎ	べと病
3 月 4 日	熊本	なす	すすかび病
4 月 1 日	大分	白ねぎ	さび病
4 月 4 日	鳥取	大麦	うどんこ病
4 月 7 日	埼玉	茶	カンザワハダニ
4 月 11 日	愛媛	麦類	赤かび病

- ・ 特殊報（前回未掲載分）

発表月日	県名	作物名	病害虫名
2 月 27 日	京都	大豆	ダイズ子実汚斑病
2 月 28 日	三重	ばれいしょ	ジャガイモシストセンチュウ
2 月 28 日	神奈川	すいか（とうがん台木）	スイカ黒点根腐病
2 月 28 日	福岡	きゅうり	キュウリ退緑黄化病（仮称）

- ・ 特殊報

発表月日	県名	作物名	病害虫名
3 月 3 日	青森	トマト	トマト萎凋病（レース 3）

3月7日	秋田	トルコぎきょう	トルコギキョウえそ輪紋病（IYSV）
3月7日	秋田	きく	キク茎えそ病
3月10日	神奈川	ほうれんそう	ハコベハナバエ
3月10日	宮城	ベゴニア	ベゴニア株枯病（新称）
3月13日	鹿児島	メロン、きゅうり	メロン退緑黄化病（仮称）、きゅうり退緑黄化病（新称）
3月18日	福島	トマト	トマト葉かび病（レース 4.9.11）
3月25日	埼玉	モントレイトスギ	クロトンアザミウマ

＜平成 20 年度の病虫害発生予察予報の発表予定日

第 1 号：4 月 24 日（木曜日）・・・・今回発表

第 2 号：5 月 15 日（木曜日）

第 3 号：6 月 12 日（木曜日）

第 4 号：7 月 10 日（木曜日）

第 5 号：7 月 24 日（木曜日）

第 6 号：8 月 7 日（木曜日）

第 7 号：9 月 4 日（木曜日）

第 8 号：10 月 2 日（木曜日）

第 9 号：11 月 13 日（木曜日）

第 10 号：2 月 19 日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班大岡，城島

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>